

平成 25 年 12 月 19 日 医師臨床研修部会報告書 (抄)  
－医師臨床研修制度の見直しについて－

(地域枠の学生とマッチング)

- 地域枠とマッチングとの関係については、
- ・ 医師養成過程における基本的診療能力の修得という医師臨床研修の本来の理念に鑑みると地域枠か一般枠かに関わらず、公平な競争を重視すべきこと
  - ・ 地域枠の学生の研修病院について、地方を中心に殆どの地域では、実際には各研修病院の募集定員に空席があることから、地域枠の学生が当該地域の全病院でアンマッチになることは想定されにくいため、地域枠の学生もマッチングに参加し研修先を決定することについて、地域医療の従事との関係で基本的には問題はないものと考えられること
  - ・ 地域枠は多岐に渡る種類が存在することから、画一的に地域枠の範囲を指定し具体的な人数を把握することは難しいことが想定されること
- 等の理由から、原則、地域枠の学生も一般枠の学生と同様、マッチングに参加し、公平な競争のもとで病院を選択することが望ましい。その際、地域枠の学生は、それぞれの地域枠の勤務要件等に留意してマッチングに参加する必要がある。

- 金丸委員 先ほど話題になった地域枠の関係ですが、かなりの割合になってます。1 学年 1,300 人ぐらいです。その先生が卒業した動向というのは、非常に大きなマスとして影響力が出てくるとすれば、先ほど言われたように、誓約が誓約でなくなっている、あるいはその誓約もなかなか難しくて誓約を入れにくい、いろいろな事情があるのかもしれませんが、これだけいい研修の制度としての評価は羽鳥先生がおっしゃったように、本人にとってはすごく身に付いているという部分があるとすれば、入口の所と、そこから後がいい形で結び付くような議論を今後していただけると有り難いと思いました。
- 桐野部会長 はい、地域枠の誓約に対するバイオレーションと言いますか、これは本当は相当由々しい問題で、入るときと、卒業するときは考え方が違ったということはあるかもしれませんが、それはそれなりの責任を感じてもらいたいと思うのです。法令的・法律的にやり始めると、どのぐらい縛れるかと、なかなか難しいのです。
- 岡村委員 例えばマッチングはまた機構がやっているから、あれなのですが、その人が地域枠の人か、一般枠かということはもちろん分かっているわけです。その地域枠で誓約をしている以外の所にマッチングを出していれば、それはおかしいということは分かるのではないかと思います、そういうのはどうしているのですか。
- 桑原臨床研修指導官 地域枠の方のマッチングについては、その地域枠が出始めるときに臨床研修部会でも議題になりまして、現状としてはお願いベースで地域枠の方本人に対してはマッチングを受けるときに自分が地域枠であるということを、ちゃんと病院のほうになるべく伝えてくださいと。  
それから病院のほうに対しては、全て必ず問い質してくださいということまではさすがに言えないので、来た学生に対して、今、手元に文言がないのですが、地域枠であるかどうかということについても、受ける病院に配慮をしてくださいというお願いをしているところです。
- 岡村委員 もっと最近巧妙というか、アンマッチという手があります。わざと出さない。一応卒業してから潜り込む。いろいろ考えられる人はいます。
- 桐野部会長 今のことは相当由々しい問題で、それが裏道として大きく開いてしまえば、マッチング制度自体が、マッチング制度というのは紳士協定でやっているわけです。それで研修を受ける者はマッチングで行きましょう。そういうずるをしては駄目よという一応の紳士協定でやっているのですが、それを分かっているながら、その学生が欲しいので裏ルートで採りますということを意図的にやっている病院があれば、それは相当大きな問題です。それは都道府県でちゃんとチェックしていただいて、もしそういうことが明らかであれば、都道府県としてパニッシュメントを考えていただかないと、ここでできるかどうかはちょっと難しいのです。
- 神野委員 正にその話は、最初の議論のプロフェッショナルリズムの医の倫理みたいな話ではないですか。これはモデルカリキュラムで、学部教育でそういう考えを排除するよ

うな教育をまずしていただかないと駄目なのではないかと思ひます。

- 清水委員 臨床研修病院でマッチングをやっていた立場から言うと、地域枠にどのような種類があつて、例えば奨学金をもらえとか、もらえないといういろいろな種類があるとか、たまたま私はこういう立場にいたので分かつてはいましたが、御存じのない臨床研修病院がたくさんあるのではないかと思ひます。例えば県の努力とかで、県からこういう制度があるからマッチング者には十分気を付けるようにということを病院側が登録するときに考えることができるわけですから、もう少しアナウンスメントとか、公知の方法を考えてもいいかと思ひました。
- 桐野部会長 例へば奨学金の枠とか、地域枠で入つた方というのは、お金の問題というのではありません。特に地域枠で他の受験生とは別枠で入つた方がいます。その人は当然マッチングのときに、私はそういう地域枠の学生ですということを申告しなければおかしいと思ひのですが、その義務条項は全くないのですか。
- 桑原臨床研修指導官 今は義務ではない。マッチングに参加するときに病院に申し出て下さいというお願いをしています。
- 桐野部会長 地域枠でありながら、その病院にそれを隠して申請して通つた場合でも、それは虚偽の情報によって入つたのだから、入学試験の不正と同じで相当問題ですよね。そういうことをした医師を立派な医師にすることは私は不可能だと思ひます。だって嘘をついたほうが得をするという話になってしまうから。地域枠の問題をやる以上はこの辺をきちつと実施していかなければいけないので、もちろん余りすごいことはできないにしても、ある程度のことは考えておかないとまずいかなと思ひます。特にマッチングで裏道ルートが開いているというのが全国情報で分かつていると思ひますが、それが堂々と通つていくということだと、何だか普通の道を歩まないほうがいいのだという話になりかねませんね。
- 岡村委員 ですから、本当に医学部の定員が、ここ10何年で一気に増えて、本来医師がもっと地域で活躍するはずなのに、よく言われる地域間偏在、診療科間偏在、それだけではなくて、しかも研究者も少なくなつていて、先ほど山下先生が言われたフリーの医者が多いとか、そういう今の地域枠の抜け道といい、この辺をもつとしっかりとした制度にしないと、単に初期臨床研修で、こういった能力ができましたということばかりで、今の制度はいいですねというので終わつては困るということを強調したいのです。
- 桐野部会長 地域枠の問題は医師の地域の偏在の問題を何とか解決しようというぎりぎりの所で作られた制度ですので、これをどうでもいいというわけにはいかないと思ひます。初期臨床研修の問題の中にも、もちろん法令の範囲内、人権を損なうことはできないのですが、その範囲内でやれることは考えたほうがいいのかなどは思ひます。この辺はこれも次回のいろいろなシステムのモデフィケーションというか、改善のときの項目の1つで、今、岡村先生が言われた問題については考えていただきたいと思ひます。よろしいでしょうか。